

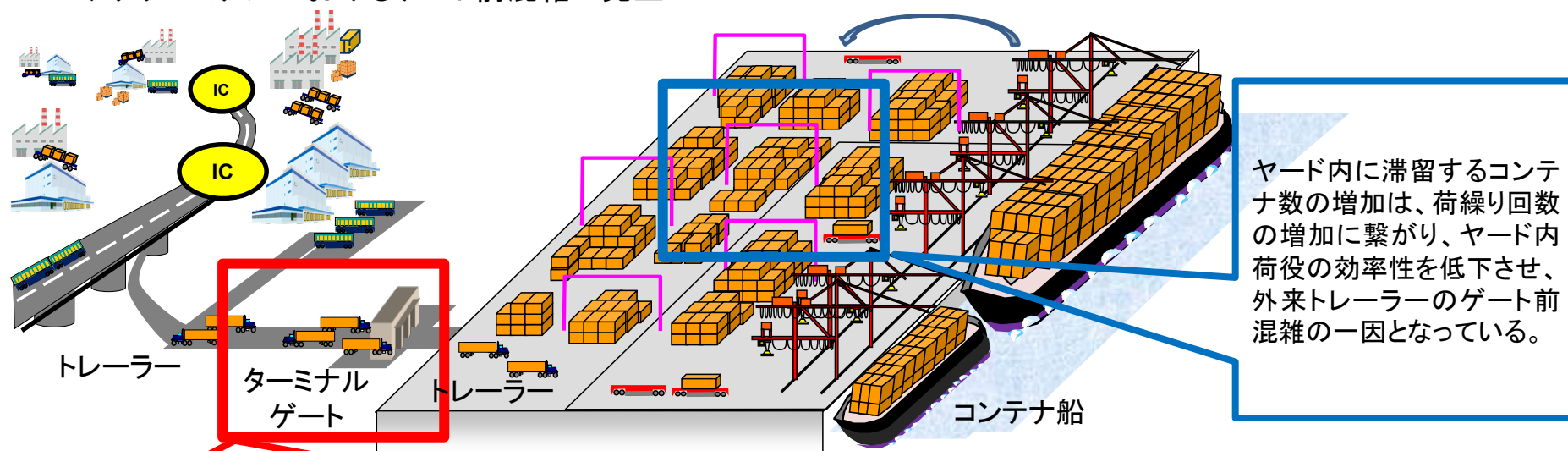
CONPASの取り組みについて

国土交通省 港湾局 港湾経済課
港湾物流戦略室
西村 海知

コンテナターミナルゲート前混雑の現状

○コンテナ船の大型化に伴う1回の寄港当たりの積卸しコンテナ数の増加は、大型コンテナ船の寄港前後におけるターミナルへのトレーラー到着台数増加に伴うゲート前混雑や、ヤード内に滞留するコンテナ数増加に伴うヤード内荷役の非効率化の一因となっている。また、ヤード内荷役の非効率化はゲート前混雑の一因でもある。

➤ コンテナターミナルにおけるゲート前混雑の発生



トレーラー到着台数が、ターミナルのゲート処理能力を超えた場合、ゲート前で混雑が発生する。

ターミナルゲート前混雑は、
①トレーラーの特定時間帯への集中
②ゲート処理能力の不足
③ターミナル処理能力の不足などに起因する。

ゲート前混雑は長年の課題

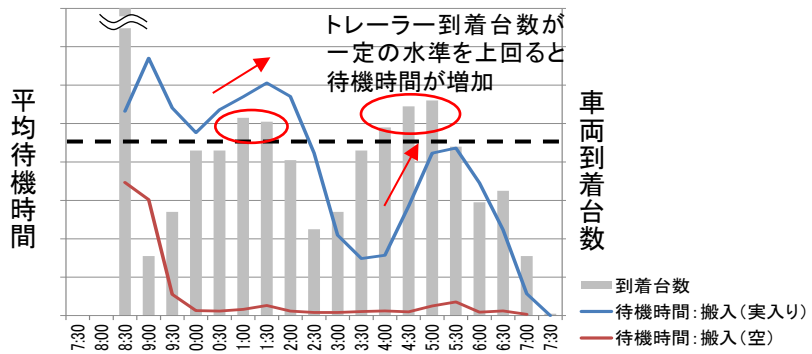
COMPASが着目したコンテナターミナルゲート前混雑の発生原因

○ターミナルゲート前混雑の発生には、①トレーラーの特定時間帯への集中、②ゲート処理能力の不足、③ターミナルの処理能力の不足、などの複合的な要因が存在。

①トレーラーの特定時間帯への集中

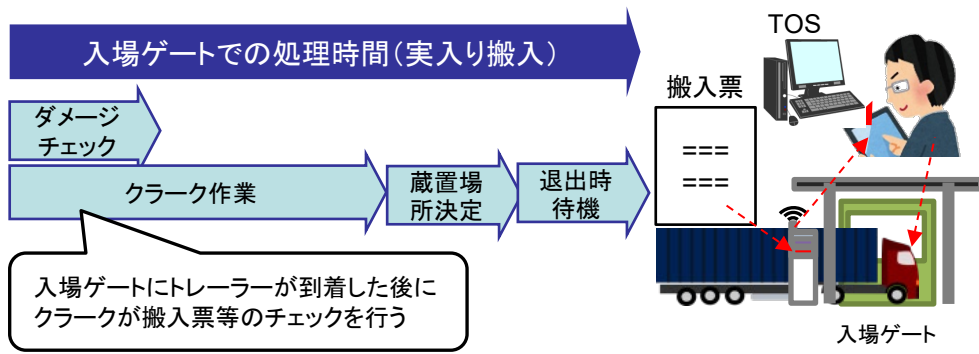
ターミナルへのトレーラー到着台数が一定の水準を上回ると、トレーラーの待機が発生し、それ以降に到着するトレーラーにも待機が継続して発生する。

【CTへの時間別到着台数と待機時間の関係のイメージ】



②ゲート処理能力の不足

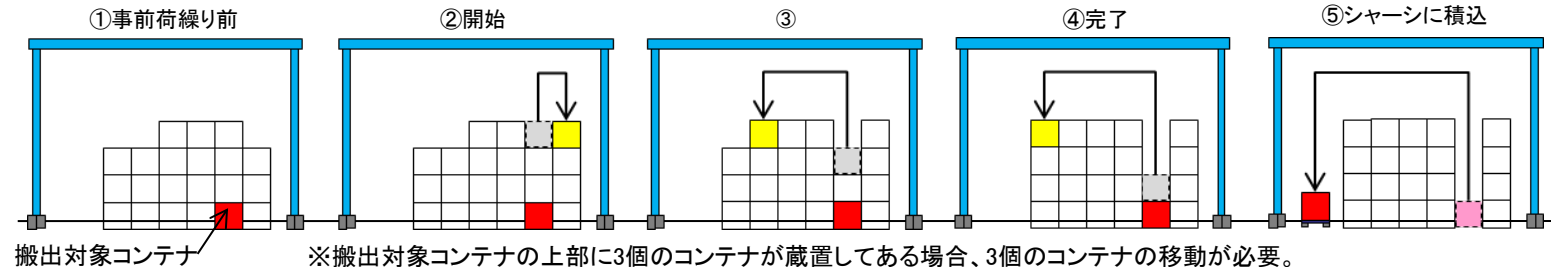
トレーラーが入場ゲートに到着してから、クレーンが搬入票情報を確認するため一定の時間を要する。さらに、搬入票の記載に誤りがある場合は、確認・訂正に時間を要する。



③ターミナル処理能力の不足

ターミナルに蔵置されるコンテナが増加した場合、コンテナの多段積みを行う必要が生じる。その結果、コンテナを搬出する際に、より多くのコンテナの移動（荷繰り）が必要になり、トレーラーのターミナル滞在時間が増加する。また、コンテナを搬入する際に、蔵置場所の候補が少なくなると、システムが自動で蔵置場所を決定できず、搬入するコンテナの蔵置位置を円滑に決定することが困難になり、ゲート処理時間が増加する。

【荷繰りのイメージ】

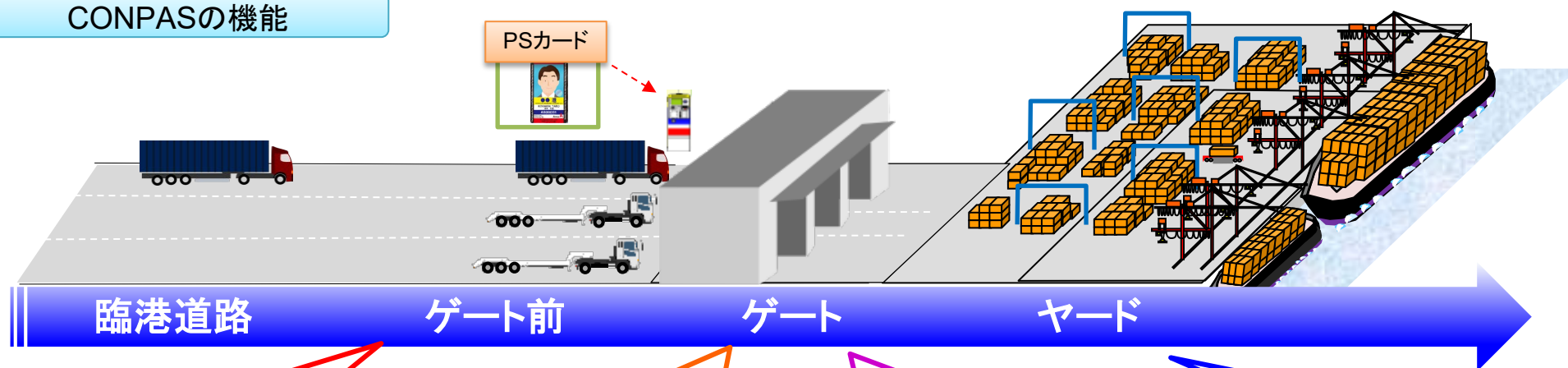


CONPASの概要

○CONPASは、コンテナターミナルのゲート前混雑の解消やコンテナトレーラーのターミナル滞在時間の短縮を図ることで、コンテナ物流を効率化することを目的としたシステム。

○横浜港、大阪港、神戸港、東京港の一部コンテナターミナルにおいて常時運用中。

CONPASの機能



①搬出入予約

搬出入予約制を導入し、特定の時間帯に集中して到着するコンテナ搬出入トレーラーを分散・平準化※

②PSカード活用

搬出入票の提示等を省略し、PSカードのタッチのみで入場受付を実施

③搬入情報の事前照合

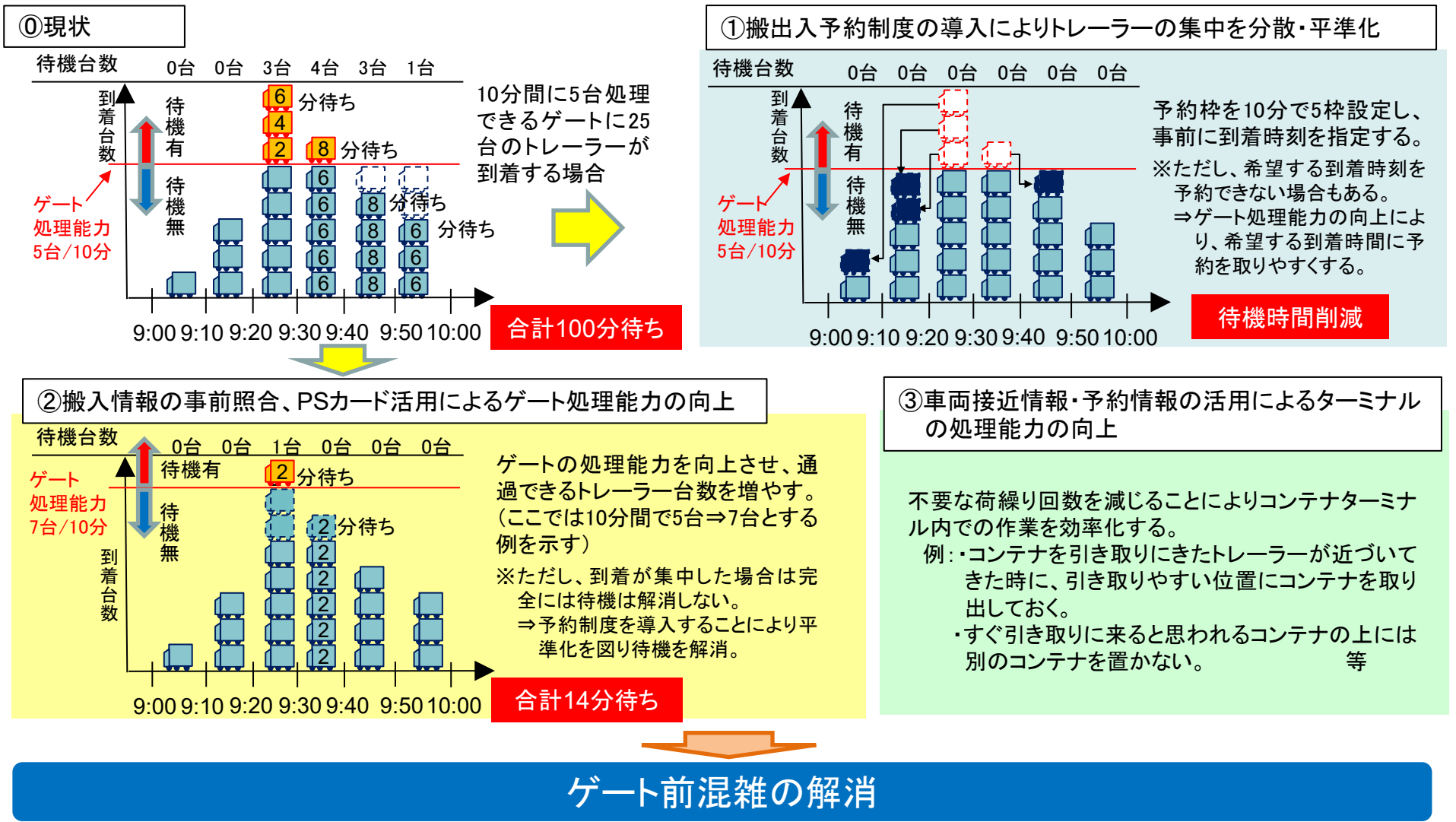
搬入手続(搬入情報とTOS情報の照合)をコンテナがゲートに到着する前に実施

④予約情報等の活用による事前荷繰り

車両予約情報等を活用し、事前にコンテナを取り出しやすい位置に移動

情報通信技術の活用によるゲート処理能力等の向上

○①搬出入予約制度を導入し、トレーラーが特定の時間帯に集中して到着することを分散・平準化、②ゲート処理能力の向上、③ターミナルの処理能力の向上、を行うことにより、コンテナターミナル前混雑を解消。



COMPASの導入状況

○横浜港南本牧ふ頭CT(R3.3～)、大阪港夢洲CT(R6.3～)、神戸港PC-18 CT(R6.9～)・PC-14-17CT(R8.3～)及び東京港大井1・2号(R7.8～)・大井3・4号(R8.1～)・大井6・7号(R8.3～)において常時運用中。

○加えて、令和7年8月には横浜港本牧BCターミナル(BC2ゲート)において、初めて「原則予約」の試験運用を実施。令和8年7月中旬より常時運用を開始。

日付	ターミナル	
2021年3月	横浜港 南本牧ふ頭コンテナターミナル	常時運用開始(※)
2024年3月	大阪港 夢洲コンテナターミナル	常時運用開始
2024年9月	神戸港 PC-18 コンテナターミナル	常時運用開始
2025年8月	東京港 大井1・2号コンテナターミナル	常時運用開始
2026年1月	東京港 大井3・4号CT	常時運用開始
2026年3月	東京港 大井6・7号CT	常時運用開始
2026年3月	神戸港 神戸国際コンテナターミナル(KICT)	常時運用開始
2026年7月	横浜港 本牧BC コンテナターミナル	<u>原則予約による常時運用開始</u>

本牧BCコンテナターミナルにおける試験運用結果

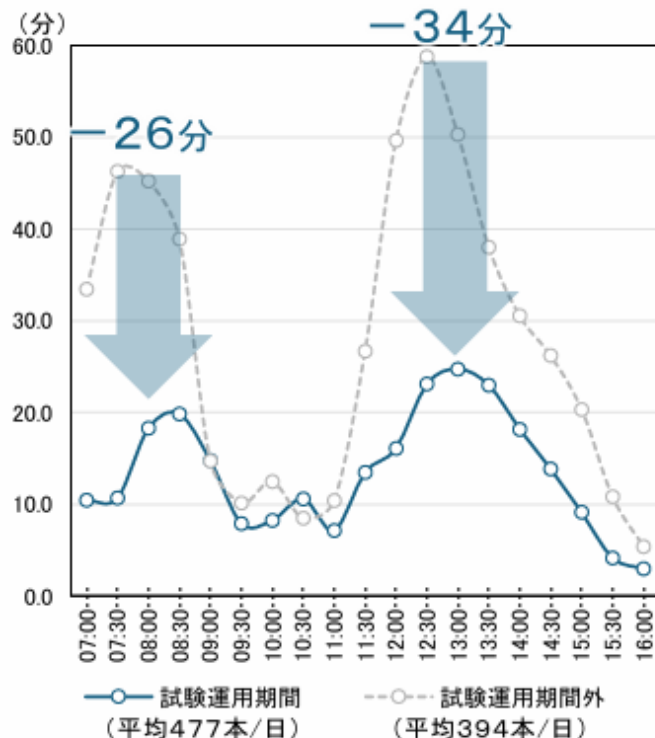
令和8年3月試験運用結果

- ・実搬入は、試験運用期間外の待機時間最大59分が、試験運用期間中の待機時間最大25分に、最大34分短縮された。
- ・空搬入は、試験運用期間外の待機時間最大53分が、試験運用期間中の待機時間最大20分に、最大33分短縮された。
- ・搬出は、試験運用期間外の待機時間最大28分が、試験運用期間中の待機時間最大10分に、最大18分短縮された。

【ゲート前待機時間(30分毎の平均)】 ※クローズ時間の待ち時間を除く

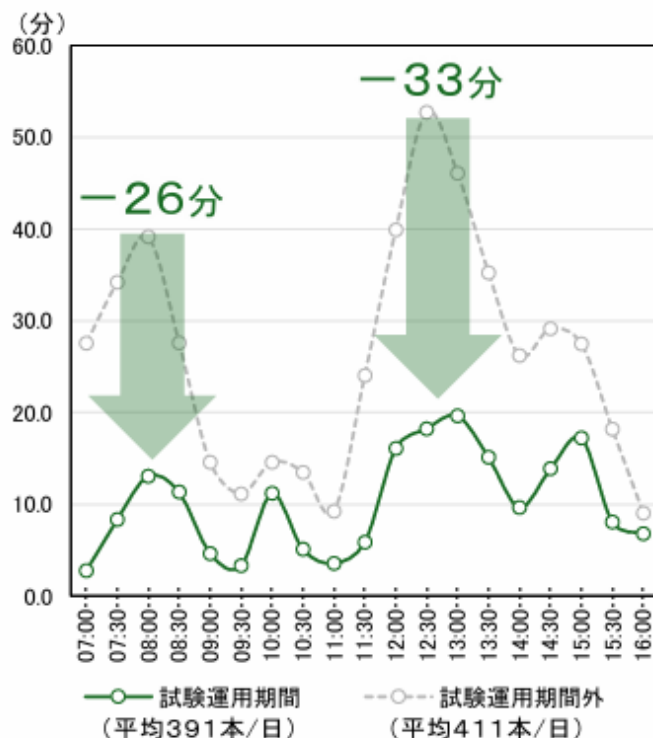
実搬入

(30分平均: 5~59分⇒3~25分)



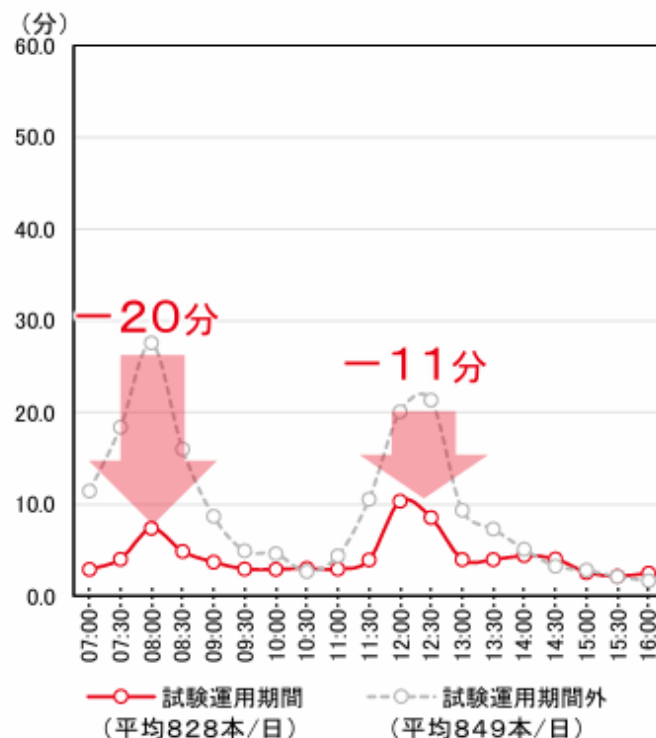
空搬入

(30分平均: 9~53分⇒3~20分)



搬出

(30分平均: 2~28分⇒2~10分)



本牧BCコンテナターミナルにおける原則予約導入

実施概要

実施時期	令和8年7月13日～
対象コンテナ	全種別 : 搬出(実入・空)、搬入(実入・空) ※BC2ゲートにて搬出入受付を行う全てのコンテナ
対象店社	神奈川県トラック協会 海上コンテナ部会加盟店社を含む BC2ゲートで搬出入する全ての利用店社 【原則予約】 ※BC2ゲートでの搬出入にあたってはCONPAS®予約が必要
予約車動線	C突堤中央道路～BC2ゲート ※例外車両(PSカード未登録など)は、例外車両予約登録場(A突堤待機場【暫定】)を経由
予約時間	全種別 : 8:30-11:30、13:00-16:30
予約枠数	・搬入(実入・空):5-8台/3分 ・搬出(実入・空):4-9台/3分
入場可能時間	予約時間枠の前後30分以内に予約状況確認場所へ来場
予約期限	搬出入日の3営業日前の14:00から入場可能時間終了まで
ペナルティ制度	適用 ※横浜港の他の常時運用/試験運用ターミナルと共通で加算 ただし、原則予約のため、『利用停止』ではなく、『利用制限(当日のみ予約)』を適用